

# そよ風通信

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8 TEL/0568-88-0811 FAX/0568-88-0839 <https://www.pref.aichi.jp/addc/>



## 院長就任ごあいさつ

愛知県医療療育総合センター中央病院 院長

水野 誠司

4月より中央病院の病院長を拝命しました水野でございます。この場をお借りして、ご挨拶をさせていただきます。

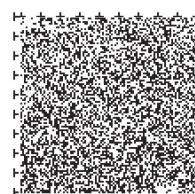
私どもの病院は新しい建物に移ってから3年が経ち、県民の皆さんに組織や名称が変わったことが知られるようになってきました。1970年代開設当時からの変遷を振り返ると、言語聴覚療法などが中途から導入されたり県内最大規模であった新生児センターが廃止されたりと、時代の要請に応じて診療内容が変わっています。この数年も児童精神科病棟の増設や臨時の新型コロナ対応病棟、医療的ケア児支援センターとしての新たな役割などで、社会の要請に対応しています。成人期への移行医療、発達障害に対する社会の認知の増大、こばと棟入所者の医療の高度化や高齢化などの今後の課題を考えると、これからも立ち止まることなく社会の要請を先取りする形で変わっていかねばなりません。

一方で、時代が移っても変わらないものもあります。私たちが対象とする子どもや患者さんの多くは成長や発達に違いがあり、医療的にも社会的にも支援を必要とする方たちです。そのご家族がこの病院を初めて訪れる時には、重い気持ちで来られる場合もあるでしょう。そんな方々がほっとするような場を提供することは、いつの時代においてもこの組織の変わらない役割であると思います。その努力は、今後も変わらず続けていきたいと思えます。

昨今は多様性という言葉に人々の関心が高まっています。私たちの病院の診療対象も多様性の幅が広い子どもたちですが、多様性を理解することは必ずしも容易ではありません。そのためには職員や関係者が経験を共有し、自ら研鑽を重ねなければなりません。また、同時進行で多様な患者さんの医療を行うことは困難さを伴うことがありますので、常に医療安全に留意しなければなりません。幸い医療療育総合センターには多様性の原因を研究する発達障害研究所や多様性への人々の理解を助け支援する療育支援センターがあり、私たちにも多様な視点を提供してくれます。中央病院は両施設とも連携して、多様性のある方たちに安全で安心できる医療を提供できるよう努力して参りますので、今後とも皆さまのご指導・ご鞭撻を宜しくお願い致します。

### Contents

院長就任あいさつ	1
新任医師紹介・専門・認定看護師紹介、 手術・中材部門紹介	2・3
診療科紹介（小児外科）、 医療的ケア児支援センター紹介	4・5
療育支援センターの活動、県民講座について	6・7
Topics	8



## 新任医師紹介



4月より子どものこころ科に赴任いたしました加藤志保と申します。精神科・児童精神科医です。これまでの経験を活かして、子どものみならずご家族支援、地域や多職種との連携など努力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

趣味：子どもとモータースポーツ観戦



子どものこころ科

加藤 志保

この度、歯科に赴任しました廣瀬満理奈と申します。患者さんひとりひとりの気持ちに寄り添い、安心して治療を受けていただけるよう心がけています。何でも気軽にお声かけください。

どうぞよろしくお願いいたします。

趣味：テニス、旅行



歯科

廣瀬 満理奈

## 専門・認定看護師紹介



当院には日本看護協会・日本精神科看護協会・日本重症心身障害福祉協会認定の資格を有した看護師が複数人在籍しています。各領域の専門性を活かし、質の高い看護を提供するだけでなく、指導・教育を行うなど院内外で活躍しています。その中で、今回は感染管理認定看護師についてご紹介します。

感染管理認定看護師（日本看護協会認定）

田口 康祐

感染管理認定看護師（日本看護協会認定）

桑山 祐樹

感染管理認定看護師の役割は、病院を訪れる全ての方々、働く職員を感染から守ることです。当院には2名が在籍しており、院内の感染管理にあたっています。感染対策は、患者さんに関わる全ての人が正しい感染対策の知識を理解し、実践することが重要となります。そのために、院内感染防止対策の体制整備、各部署のラウンド、職員教育を行っています。当院をご利用される皆様に、安心、安全な医療を提供できるよう、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等、多職種で構成する感染対策チームのメンバーと協力しながら活動しています。

現在、新型コロナウイルス感染症流行による診療への影響を最小限にすべく、病院入館時の検温・問診や面会制限など、ご不便をおかけする状況が続いています。新型コロナが終息し、マスクを外して一緒に喜びあえるその日まで、今しばらくご協力をお願いいたします。



## 手術室・中央材料滅菌室紹介

～安心・安全な手術が行われるよう患者さんや家族をサポートしています～

当院では手術室と中央材料滅菌室が併設されていますので、今回、2つの部署を紹介します。

まず手術室ですが、小児や障がい児（者）を対象として、治療上手術が必要になると、小児外科、整形外科、婦人科などで手術が行われます。最近では全身麻酔をかけた歯科治療も行われるようになってきました。小児外科では一般的な鼠径ヘルニアの手術を始め、腹腔鏡下手術、全身麻酔をかけた



検査、整形外科では麻痺性の変形に対する手術や筋緊張が高まりやすい方へのボツリヌス療法、歯科では抜歯・虫歯治療などが行われています。手術を行うときに、患者さんによっては身体の変形があったり、骨折しやすい患者さんもいるので、たくさんの注意を払いながら患者さんに合わせた手術室看護を行っています。また、手術は患者さんやご家族にとって、不安や心配を伴うものです。手術が決まると主治医や麻酔科医から説明がありますが、手術室看護師も患者さんや、ご家族の不安が少しでも軽くなるよう術前・術中・術後訪問などを行っています。必要があれば、手術室看護師にも気軽に声を掛けて下さい。手術は専門的なスタッフが集まり手術に必要な物品の準備、手術前の検査、その他にも色々な準備が整って初めて行うことができます。そのため手術を担当する各外科医、麻酔科医、病棟看護師、手術室看護師、臨床工学技士など関わる職種全員で連携しながら、安心、安全な手術が行われるよう患者さんや家族をサポートしています。

次に中央材料滅菌室の紹介です。中央材料滅菌室では、手術の時に使用される医療材料をはじめ、その他、病院内の診療や看護などに必要な医療材料の準備、管理を行っています。手術に使用される医療機器に対しては、使用した器械や器具の洗浄・滅菌・点検を行います。これらの業務を正しく行うことで、患者さんを感染から守ったり、安全な手術を行うことができます。また、手術以外でも使用される医療材料はたくさんあるため、使用される医療材料が早く、安全に提供できるよう外来や病棟、その他の部署と連携しながら準備、管理を行っています。





## 障がい者の生活の質を高める手術について ～小児外科部門～

小児外科部長 新美 教弘

こんにちは。今回は、医療療育総合センターの外科部門のご紹介です。

私たちの専門は小児外科です。すでに10年以上経ちましたが、NICUが開設されていた愛知県コロナ時代には、新生児を対象とした外科症例を中心に診療していました。コロナ重症者の治療で有名になった「ECMO」を体重3kg程度の新生児に施行していた時代もありました。その後、愛知県の周産期医療体制の方針が転換され、外科は新生児から障がい者のQOL向上を目的とした治療に重点が移行しています。そこで、手がけているQOL向上の支援手術から抜粋してご紹介したいと思います。

脳性麻痺などの障がい者の方は、生まれた直後から重度の障害を負った方から、障害が固定することなく青年期や壮年期を経て重くなっていく方まで様々です。特に、飲み込みの障がいを負った方は誤嚥性肺炎や栄養摂取不足につながり、放置すれば命に関わります。外科への相談件数も多く、誤嚥防止を目的とした喉頭気管分離手術を行う機会が増加しています。

この手術は誤嚥を完全に防ぎますが発声する事ができなくなります。生涯にわたり声を失う事は患者さんとその家族にとっては大きな苦痛です。その代わりに術後は安心して食事をする機会が復活しますよと説明できることが救いです。実際に手術を受けられて、摂食を諦めていた方が食事を味わえるようになり明るさを取り戻された姿を拝見することは多々あり嬉しい限りです。

食べられないなどの理由で口からの栄養補給が不足する方には胃ろうを勧めます。その際に嘔吐や食道への逆流が顕在化している方には胃の逆流防止術を同時に行うことがあります。胃ろうを作る手技はそれほど難しくはありませんが、正しい位置に胃ろうを作成しないとひどい漏れ、逆流、チューブトラブルなどの合併症を引き起こし、時として命に関わるので注意が必要です。胃の逆流防止術は、患者さんのからだの変形拘縮が進むと姿勢の制限や骨折のリスクが加わり手術の難易度は上がります。しかし、工夫を重ねながら腹腔鏡手術ですべて行っています。術創は小さく痛みも緩和されて、以前に行っていた開腹術より術後経過は大変良好になりました。そのほかにもいろいろありますが、私たちのセンターの特色である主なQOL向上手術の紹介をしました。

手術以外にも外来診察をしていると、障がい者の方の免疫や骨折予防など健康を維持するために栄養がとても大事である事に気づかされます。相談事には答えが出ないことが多くご家族は試行錯誤されています。その悩みを少しでも解決するために、外科の毛利医師と栄養士がタッグを組んで胃ろう・栄養外来を開設しており、現在ではたくさんの患者さんが訪れています。

もちろん私たちの本分である小児鼠径ヘルニアなどの治療も腹腔鏡を用いて行っています。どうぞ、ご相談ください。



(左から)  
加藤前院長、毛利医師、田中医師、里見医師、新美副院長



## 医療的ケア児支援センターの設置（令和4年4月～）について

令和3年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」（通称「医療的ケア児支援法」）が施行され、都道府県に医療的ケア児支援センター（以下「支援センター」）が設置されることになりました。愛知県では令和4年4月から7カ所の支援センター（1基幹支援センター、6地域支援センター）が業務を開始しています。

愛知県医療療育総合センターには全県下を対象とする基幹支援センター（尾張北部・尾張東部圏域の地域支援センターを兼ねる）が設置されました。センター長（兼任）はじめ、医師、看護師、社会福祉士等のスタッフで動き出しています。

これにより、愛知県における医療的ケア児の家族と関係する事業所への支援体制は重層的な充実した体制となります。県・市町村における設置された医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場、市町村に配置された医療的ケア児等コーディネーター、圏域に配置されたアドバイザー、それらを統括する形で地域・基幹支援センターが設置されました。

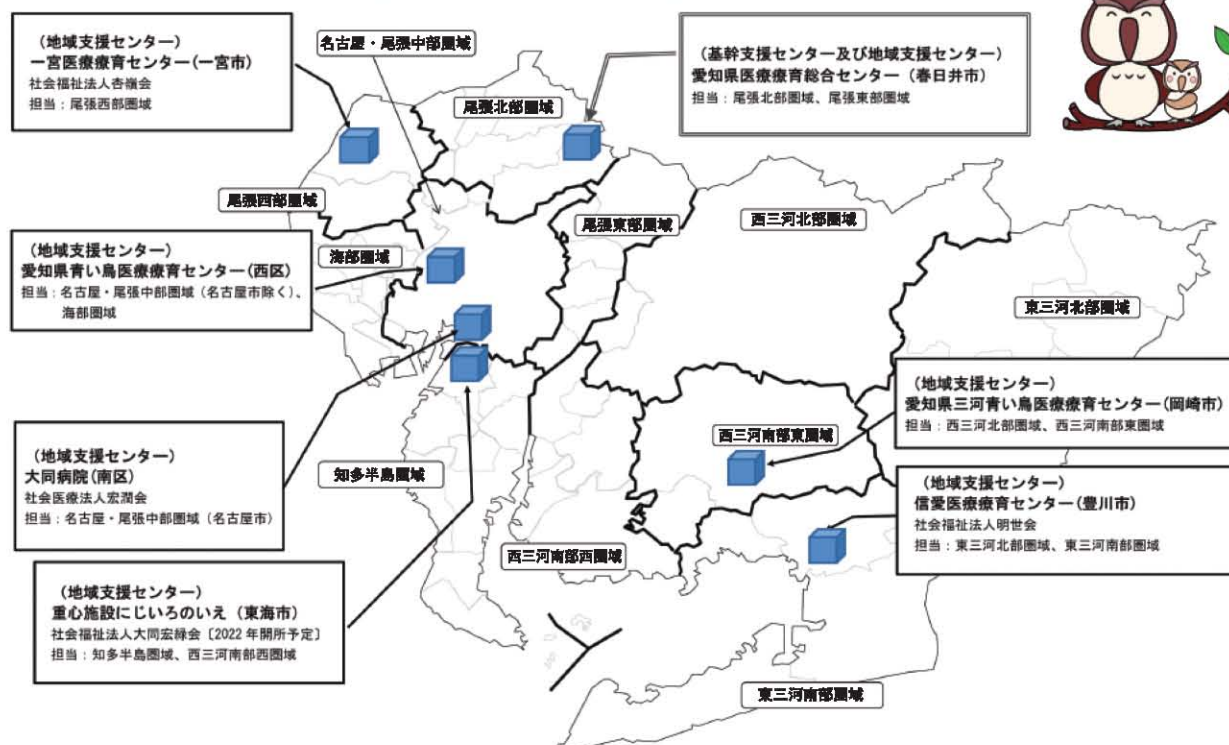
地域支援センターは医療型障害児入所施設・療養介護施設を中心に委託されています。支援センターの役割は専門相談、地域支援として情報収集・発信と研修の提供、関係機関連携です。特に相談機能は重要で、どこに相談すればよいのかわからない医療的ケア児等からの相談や保育所・障害福祉サービス事業所等支援者からの相談への対応が想定されています。

医療的ケアが必要な子どもとその家族も、医療的ケアが必要でない子どもとその家族と同じように、地域で充実した豊かな生活、人生を送ることができる愛知県を目指して、スタッフ一同邁進していきます。今後とも皆様のご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

あいち医療的ケア児支援センター長

愛知県医療療育総合センター中央病院 副院長 **三浦 清邦**

医療的ケア児支援センターの配置及び担当圏域





## 地域を支えるショートステイ(短期入所)サービスについて ~療育支援センター~

『広報誌・そよ風通信』は7回目の発行を迎えました。創刊号より療育支援センターのページの誌面をお借りして、地域支援課の担当業務、それに携わる職員の横顔や日々の奮闘の様子などを紹介してまいりました。今号では、『地域生活を支える：ショートステイ(短期入所)サービス』について取り上げさせていただきます。

ショートステイ(短期入所)サービスとは、ご自宅で介護を行っている方が病気などの理由により介護を行うことが困難となった際に、障害をお持ちの方に障害者支援施設や障害児入所施設等へ短期間入所していただいて、入浴、排せつ、食事のほか必要な介護を提供する障害福祉サービスの一つです。加えて介護される方への休息(レスパイト)の時間を創出する役割も担っており、利用される障害者種別等に応じて、障害者支援施設等において実施される『福祉型※1』と病院、診療所、介護老人保健施設において実施される『医療型※2』があります。

地域支援課では中央病院(こばと棟含む)で提供している『医療型短期入所サービス』の予約受付、病棟との利用調整や入退所時の手続き等について心身障害支援グループが支援させていただいております。

今後も、障害がある人やそのご家族が安心・安全に暮らすことのできる地域支援体制の実現に向けて、ご利用される皆様一人おひとりに寄り添い、お寄せいただいた声を真摯に受け止め、担当者一同日々の研鑽に努めて参ります。

※1(1) 障害支援区分が区分1以上である方 (2) 障害児に必要なとされる支援の度合に応じて厚生労働大臣が定める区分における区分1以上に該当する児童

※2 遷延性意識障害児・者、筋萎縮性側索硬化症(ALS)等の運動ニューロン疾患の分類に属する疾患を有する者及び重症心身障害児・者等…<参考 厚労省HP>

最後に担当者からのメッセージをお届けさせていただきます。

○介護は24時間休みなし。時には短期入所を利用して、体を休めたり、お出かけをしてリフレッシュをしたり、体と心の充電をしてみてください。ただ、この2年間はコロナの影響で今までのように利用できない状況になっております。

ご迷惑をおかけしておりますが、何かあればご相談ください。<木全相談員>

○この2年ほどコロナの影響もあり、ご希望の日程でショートステイをご利用いただけないことも多く、ご迷惑おかけしておりますが何かあればご相談ください!<乾相談員>



令和4年度 担当職員  
乾相談員(左)と木全相談員(右)



## 令和3年度 愛知県医療療育総合センター県民講座の開催について テーマ 自閉スペクトラム症の特性を知り、発達をサポートする

令和4年1月22日から2月22日の間、県民講座をオンライン開催しました。

医療療育総合センターの県民講座は心身障害者コロニーの時代から、障害を有する方やそのご家族、サポートに携わる方々を対象に、年に一度テーマに選んだ障害や症状に関して科学的側面、臨床的な留意事項やトレンド、支援のノウハウに関する知識などの情報を講演形式で提供してきました。一昨年度は開催を計画するもコロナ禍で中止せざるをえなかったため、今回は2年ぶりの開催となりました。昨年度も落ち着く気配のないコロナ禍のために集会方式での開催は断念し、1ヶ月間オンデマンドでの動画配信の形式で開催しました。昨年度は県民講座18年間の歴史の中で3回目となる「自閉スペクトラム症」をテーマとし、吉川中央病院児童精神科部長、乾発達障害研究所障害システム研究部長、小松中央病院リハビリテーション科長の3名の講師にスライド動画をご準備いただきました。



吉川講師は「自閉スペクトラム症支援の新しい潮流」と題し、増加している女性の自閉症者の話題など最近の動向を交えたトピックスをわかりやすく紹介しました。乾講師は「自閉スペクトラム症と脳のはたらき」と題し、脳機能の観点から見た自閉スペクトラム症の特性に関する最新の科学的知見を紹介しました。小松講師は「自閉スペクトラム症と作業療法」と題し、感覚統合療法など豊富な経験に基づいたリハビリテーションの実情を紹介しました。

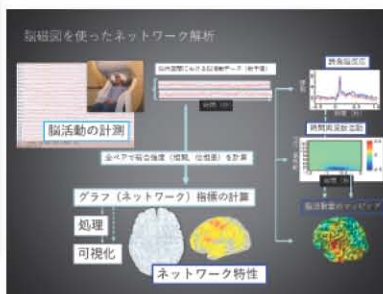
今回初めて試みたオンライン開催でしたが、特に大きなトラブルもなく無事に配信が終了し安堵しています。一方でオンライン開催のメリットとして、これまで会場の収容人数で制約を受けていた参加者が915人に達しました。これは過去の実開催が参加者150名程度だったことを考えると大幅な増加と言えます。さらに吉川講師の1,435視聴回数を筆頭に他の二つの講演も登録者ほぼ全員により視聴された計算です。ただし302回しか視聴されなかった閉会挨拶者としては少し切ないところです。

参加者にお願したアンケートには205名からのご回答があり、今後の県民講座実施への糧となる貴重なご意見をいただきました。この中ではやはり実開催に比べて参加が容易で、何回も講演の視聴ができるオンライン開催を歓迎する声が多く見られました。一方で実開催を求める意見もありましたが、今後のウィズコロナ/ポストコロナ時代での県民講座の実施形態を考える上で役立つデータとなりました。満足度についても「参考になった」81%、「少し参考になった」19%と、概ね皆さんにご満足いただけた様です。アンケートはさらに詳細な項目からなり、このアンケートにお答えいただいた皆様の期待に応えることができるよう、今後の県民講座開催にご意見を反映させていきたいと思っております。

医療療育総合センター 発達障害研究所 所長 中山 敦雄

### 自閉スペクトラム症の捉え方の変化

- 認知の障害から動機の障害へ
- 「カモフラージュ」
- 女性の自閉スペクトラム症
- 当事者からの発信
- 神経多様性（ニューロダイバーシティ）
- 「余剰活動」への注目





# Topics

## ～はるひの家編～

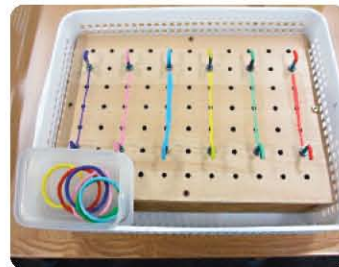


フォーラムの様子

## はるひフォーラム



自立課題を行っている様子



ゴム合わせの課題

2月10日にははるひフォーラムが開催されました。年に1度、他部署の職員も参加し、はるひの家と、親子療育の家での取り組みを発表しています。今年はコロナウイルス感染拡大の影響もあり、はるひの家と親子療育の家の職員のみで開催されました。はるひの家からは自立課題の取り組みについて、親子療育の家からは親子療育の家での支援についての発表がありました。どちらも児童支援に役立つ内容であり今後の支援に活かしていきたいと思えます。

## ～こぼと棟編～

## 季節に合わせた製作活動



こぼと棟では、月、火、木、金曜日に保育士が主となって日中活動を行っています。午前は個別支援計画に基づいた活動を、午後は各居室ごとに集団で楽しめる活動をダイルームに出て実施しています。製作活動では季節に合わせた製作を行っています。

職員と一緒に折り紙をちぎって貼る、手に絵の具をつけて色付けする、筆に絵の具をつけて描く等様々な方法で利用者さんと楽しみながら行っています。完成した作品は病棟入り口や居室に飾り、病棟を賑やかに彩っています。

### 第三期工事のお知らせ

現在、旧発達障害研究所、旧中央病院等の取壊し工事及び駐車場等整備を実施しております。工事期間中は駐車場の変更や通行規制など医療療育総合センターを利用される皆様に大変ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。なお、駐車場所の変更や通行規制等の情報については、ホームページに最新の情報を掲載しておりますので来院前にご確認ください。